

2007年度
技能実習生による技能実習修了直後評価
調査結果報告

財団法人 国際研修協力機構

JITCO

技能実習生による技能実習修了直後評価の調査結果報告

外国人研修・技能実習制度は、順調に定着してきているが、その制度の利用者の拡大に伴い、一方では、失踪の発生、研修先の無断変更、研修・技能実習生の不法残業、研修手当・賃金の不払に関する不適切な事例等の問題も各地で発生している。研修及び技能実習については、入管法令や労働法令を遵守して、制度の適正実施を図るため、JITCOは、受入れ機関や送出し機関等に対して助言・指導を行っている。

今般、本制度により入国している技能実習生に対し、直接アンケート調査を行い、我が国において技能実習を受けた満足度を知ることによって、本制度の資質の向上を図る。

1. 概要

(1) アンケート実施手法について

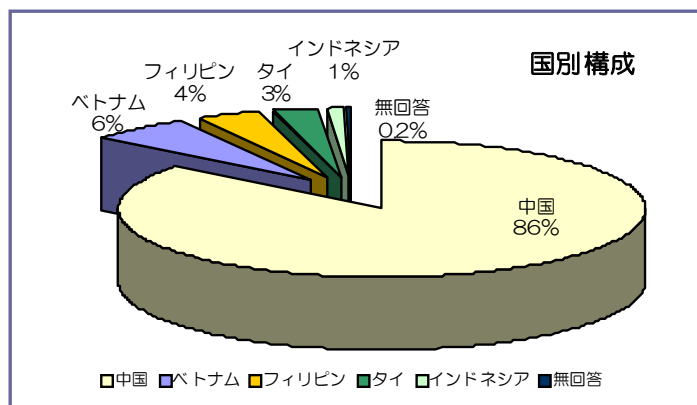
本アンケート調査は、2007年11月1日から2008年2月29日までの4ヶ月間に、JITCO 地方駐在事務所の職員が巡回指導時に行った。調査の対象は、6ヶ月以内に技能実習を終了し、帰国する予定の技能実習生とし、1,007名を調査した。調査の方法は、職員が調査の対象の技能実習生へ直接、アンケートに記入してもらい、アンケートを回収した。

(2) 調査の対象の属性について

- ①「国別構成」をみると、中国の技能実習生からの回答数が862名（85.6%）と圧倒的に多く、ベトナム、フィリピン、タイ、インドネシア等の技能実習生からの回答数は145名（14.6%）であった。
- ②「業種別構成」をみると、繊維衣服410名（40.7%）、機械金属208名（20.6%）からの回答数が60%以上であった。
- ③「性別構成」をみると、女性の割合が73.9%を占めている。昨年と同様、今回の調査も、女性の回答者が多い結果となった。
- ④「年齢別構成」をみると、年齢層には片寄りがなく、幅広い層から均等に回答が得られた。今回の調査における平均年齢は、27.5歳であった。
- ⑤「技能実習期間構成」をみると、ほとんどの技能実習生が2年間の実習を行っている。

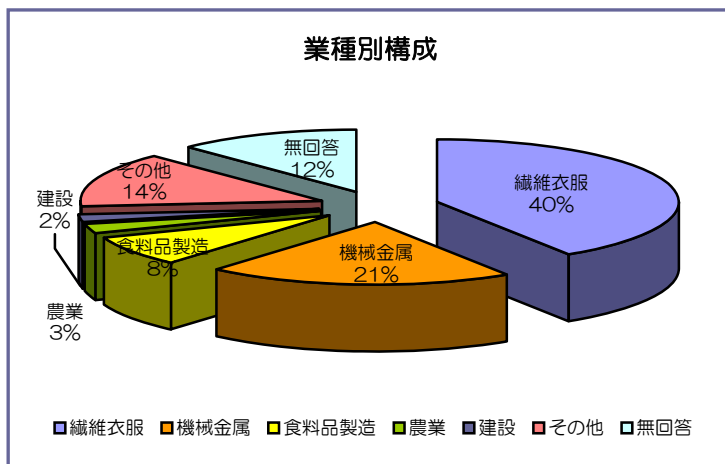
<国別構成>

国名	人数	構成比
中国	862	85.6%
ベトナム	63	6.3%
フィリピン	41	4.1%
タイ	26	2.6%
インドネシア	13	1.3%
無回答	2	0.2%
計	1007	100.0%



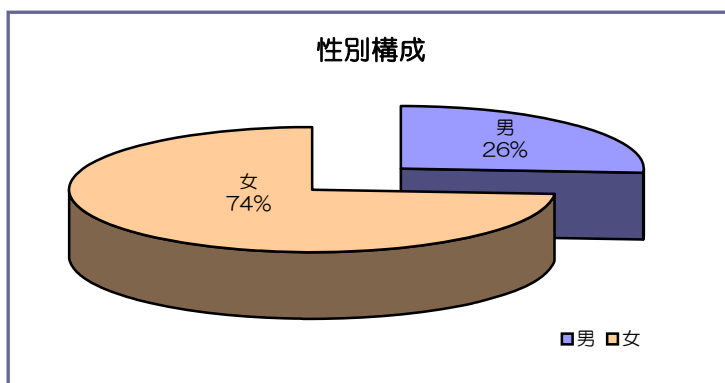
<業種別構成>

項目	人数	構成比
繊維衣服	410	40.7%
機械金属	208	20.6%
食料品製造	78	7.7%
農業	27	2.7%
建設	18	1.7%
その他	143	14.2%
無回答	123	12.2%
計	1007	100.0%



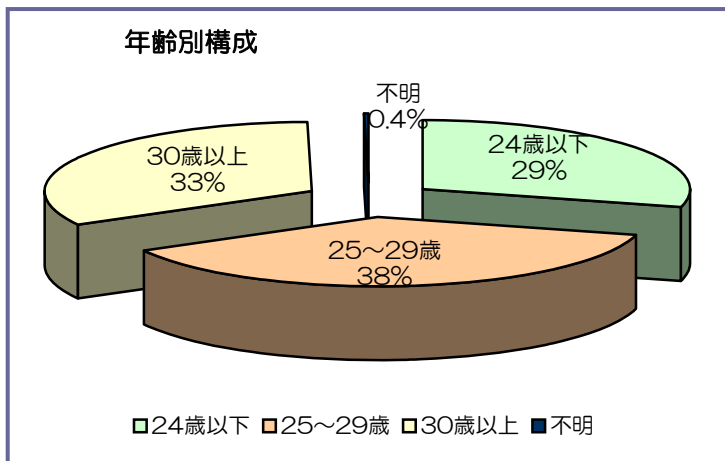
<性別構成>

項目	人数	構成比
男	263	26.1%
女	744	73.9%
計	1007	100.0%



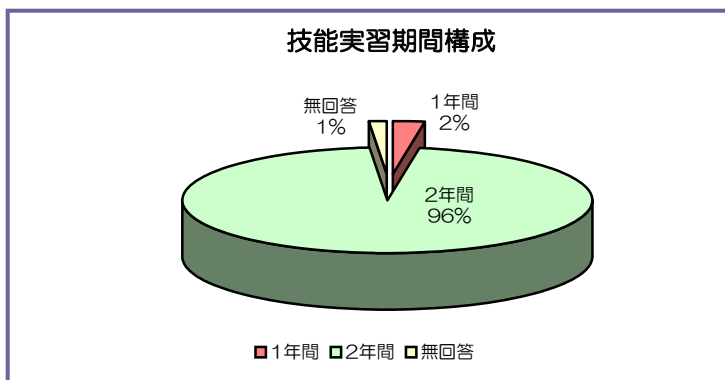
<年齢別構成>

項目	人数	構成比
24歳以下	295	29.3%
25~29歳	380	37.7%
30歳以上	328	32.6%
不明	4	0.4%
計	1007	100%
平均年齢	27.5歳	



<技能実習期間構成>

項目	人数	構成比
1年間	24	2.4%
2年間	970	96.3%
無回答	13	1.3%
計	1007	100.0%



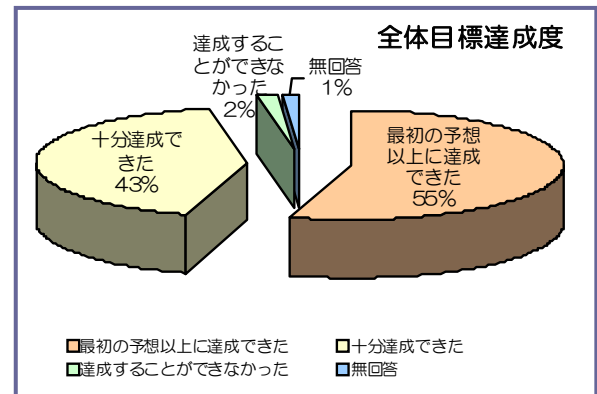
2. 技能実習の目標達成度

研修・技能実習についての目標達成度を調査した。

<全体目標達成度>

全体の目標達成度については、「最初の予想以上に達成できた」が54.6%、「十分達成できた」が42.6%であり、双方合わせて目標を達成できたとする者が97.2%に達した。

項目	人数	構成比
最初の予想以上に達成できた	550	54.6%
十分達成できた	429	42.6%
達成することができなかった	18	1.8%
無回答	10	1.0%
計	1007	100.0%



3. 研修・技能実習について

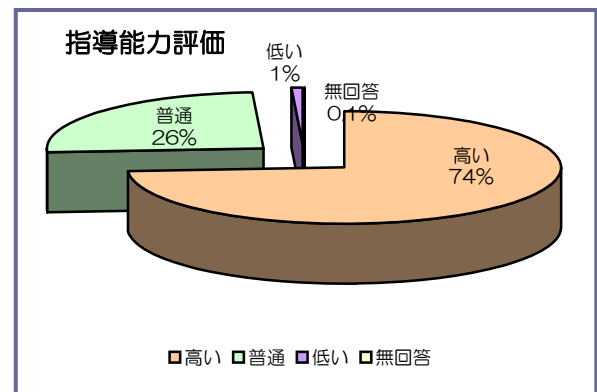
次に、受入れ機関が行った研修・技能実習の内容、また、習得した知識・技能の今後の研修内容の活用性について調査した。

(1) 指導員の指導能力評価

<指導能力評価>

指導員の指導能力評価では、指導能力が「高い」と回答する者が743人(73.8%)あることから、技能実習を担当する日本人スタッフの能力には満足していると考えられる。これは、指導員が知識・技能のレベルに加え、コミュニケーション能力も高めて指導していることと思われる。

項目	人数	構成比
高い	743	73.8%
普通	257	25.5%
低い	6	0.6%
無回答	1	0.1%
計	1007	100.0%

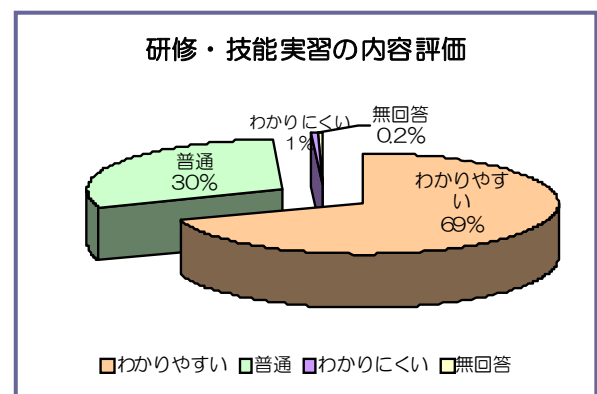


2) 研修・技能実習の内容評価

<研修・技能実習の内容評価>

研修・技能実習の内容評価では、「わかりやすい」と69.4%が回答していることから、研修・技能実習の内容に満足していると考えられる。

項目	人数	構成比
わかりやすい	699	69.4%
普通	300	29.8%
わかりにくい	6	0.6%
無回答	2	0.2%
計	1007	100.0%

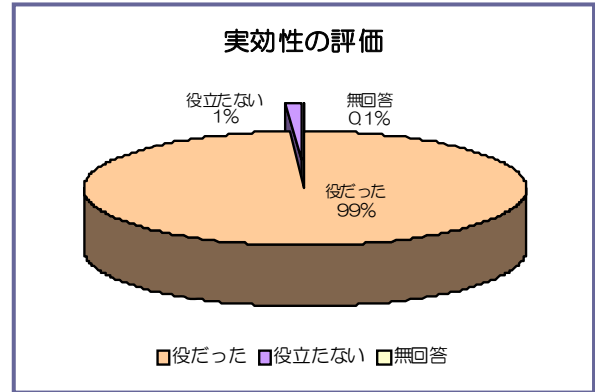


(3) 研修・技能実習の実効性評価—自分に役だったか

<実効性の評価>

全体的には「自分に役立った」と答えた者が98.9%を占め、ほぼ全員が研修・技能実習制度で行われた知識・技能の移転について高く評価した。

項目	人数	構成比
役だった	996	98.9%
役立たない	10	1.0%
無回答	1	0.1%
計	1007	100.0%

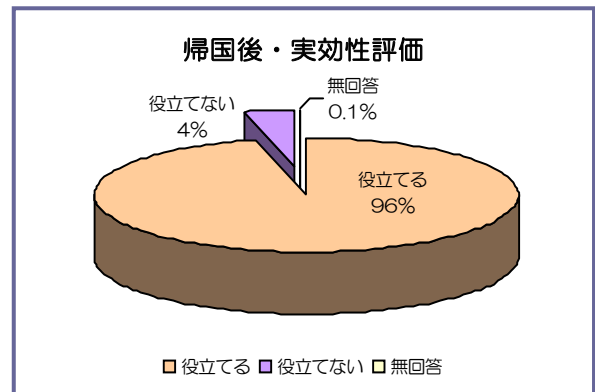


(4) 研修・技能実習の実効性評価—帰国後母国で役立てるか

<帰国後・実効性の評価>

帰国後、我が国で学んだ技術、技能を母国で役立てることができるかという実効性の評価では、96%の回答者が「役立てる」と高く評価している。習得した研修分野における知識・技能及び日本人の職業意識も体得し、今後、母国の発展のために役立つことを期待する。

項目	人数	構成比
役立てる	967	96.0%
役立てない	39	3.9%
無回答	1	0.1%
計	1007	100.0%



4. まとめ

今回の調査において、技能実習生は、技能実習での技能習得に関する目標達成について、非常に高い満足度を示している。

その中で、18名の技能実習生が目標達成できなかったと回答しているが、「研修・技能実習について」の回答状況をみると、各項目ともそれぞれ88%以上の高い満足度を示して回答している。

これは、技能実習生自身が、我が国における研修・技能実習に対して、入国前に抱いていた期待・目標とは違ったけれども、受入れ事業所等の指導員の能力及び研修内容等については、それぞれ満足しているという結果であり、いろいろな期待感・目標を持って入国している気持ちが伺える。

また、「技能実習での技能習得に関する目標達成」について、職種別にみると、食料品製造（78名）、農業（27名）、建設（18名）においては、全ての回答者が目標を達成したと回答している。

5 今後の方針について

各種の統計資料が多く存在するが、本調査のように、技能実習生から直接アンケート調査したものは少なく、技能実習生からの生の声として非常に有益なものであることから、今後、本調査の結果を活用して、研修・技能実習制度の充実及び適正化を図って参りたい。